

# 貝坂倶楽部

—季刊 2015 春号 通巻第 32 号—



樋口一葉にゆかりのある平河町一丁目。  
江戸名所図会には「この地は昔から甲州  
街道にしてその路傍にありし一里塚を土人、  
甲斐塚とよびならわせしとなり」とある。貝  
塚であったのが現在定説となっている。



発行 NPO つくしくらぶ

## 目次

### 寄稿者一行紹介

チューリッヒの運動会	藤原 英郎	3
デリーの世界遺産	小野 昭生	5
「冬物語」	関 敦	8
銀行家、小野吉一さんの言葉・印象から(メモ)	高松 良晴	10
つくしのぼうや	高橋 育郎	12
定年退職	高松 泰代	15
Children's Books		18
Tea Time: いよいよ「SIMフリー」元年		20
「あなたのお名前」何て言うの	田村 徹	22
時間との勝負	渡辺 成典	24
桜咲く頃、桜散る頃	藤原 昌子	26
サウディアラビア訪問記(6)	藤井 能成	28
ぼくのじいさん	湯沢 雍彦	32

## 寄稿者一行紹介

藤原 英郎	銀行員、現役時代に英国、スイスに勤務
小野 昭生	都市交通問題研究家
関 敦	非鉄金属メーカー機械技術者
高松 良晴	国鉄マン、鉄道建設改良工事に従事
高橋 育郎	国鉄マン、日本童謡協会会員、日本橋「心のふるさとを歌う会」代表
高松 泰代	NPO つくしくらぶ 理事長
田村 徹	研究員→国連環境計画局→大学教授→環境コンサルタント
渡辺 成典	民生委員
藤原 昌子	NPOつくしくらぶ 副理事長
藤井 能成	化学系技術者、分離膜研究開発に従事
湯沢 雍彦	お茶の水女子大学名誉教授

－出てみてわかった世界－

## チューリッヒの運動会

藤原 英郎

スイスのチューリッヒに滞在していたときに、思いがけなくも、日本語学校の校長先生になった。正確に言えば、日本語補習学校の校長先生を務めた。スイスではジュネーブに日本人が一番多くいて、日本語学校も全日制の立派な校舎があり、もちろん校長先生をはじめとしてその他の先生も常勤でおられた。ところが、チューリッヒは日本人の数はこれに次ぐが、まだ全日制の日本語学校はなかった。しかし滞在の日本人の声に押されて、数年前から日本語補習学校は存在していた。開講日は毎週土曜日であり、当初校舎は近所の小学校の校舎を借りていた。

チューリッヒの近くに Inter-Community School, Zurich という学校があり、ここでは英語で全課程の授業を行っており、近在の英米人を中心として、日本人の駐在員家族もここに通わせていた。わが家の長女も通学させた。その後、駐在員家族も多くいるし、土曜日開講の補習学校にこちらの校舎を借用することとなった。

補習学校の運営は、各会社駐在員がそれぞれ代表を選び行った。当面のところ、全日制への移行が最大のテーマであったので、各代表には東京への出張の際に関係団体に依頼するなどの努力を行った。補習学校の日常の事務処理のために置かれたのが、校長先生である。校長の仕事は、始業式や卒業式、秋の運動会の司会などであったが、その他の仕事は、時々発生する先生欠員の募集であった。

補習学校には、専任の先生が、幼稚園児(年長組と年少組)、小学1年から6年までそれぞれ1人、中学1人という配分である。補習学校の先生には地元の、スイス人と結婚した元小学校教員にやってもらった。元小学校教員に限ることができたのは、それだけ多くの元教員が、スイス人と結婚していることを意味する。時々欠員が発生するが、その都度新聞などで募集し、わがオフィスへ来てもらい、面接を行う。採用可否は校長に任されている。

ある時、チューリッヒのメイン通りの一つであるバーンホフ通りで、「校長先生、おはようございます」との日本語の挨拶を受けた。そういえば、すこし前の始業式に出ていた、生徒の一人であったことを思い出した。始業式も卒業式も含め、すべての儀式は、日本流に行うこととしていた。これは、滞在が長期に及ぶと、日本の習慣が薄れるので、案じた父兄からの声に、従ったも

のである。卒業式には、もちろん、各人宛に卒業証書を授与する。

さて運動会も同様である。毎年、秋に行う。日曜日に市営の公園を借り切って開催である。校長先生としての小生の仕事は、はじめに台の上に乗って、挨拶を行い、準備体操から始まる。競技は、徒競走、綱引き、玉入れ、最後にはパン食い競争などが行われる。徒競走は、公園を借りているので、ルートはない。そこで、父兄の何人かが、数メートルおきに立って大きなサークルを作りルートにする。

こうした運動会用の道具は、これまでの運動会で日本から購入済みであり、幹事の一人が会社で保管している。綱引き用の綱も用意されている。いずれも、日本の小中学校の運動会の道具は、それぞれ専門店で販売されているのが普通なので、玉入れもバスケットもそれぞれ発注したものである。

最後はパン食い競争である。パンはあんこの入った菓子パンである。これは母親たちの出番である。母親たちが、数日前から、この菓子パンの製造を行う。まず甘いあんこを本格的に小豆から作る。次いでパンを焼く。パンにあんこを入れ、ヒモをつける。次に適当な間隔で、棒につるす。大変手間のかかる仕事である。

公園は市役所から借り切っているが、見物する一般のスイス人もいる。やっているのは純粹の日本の運動会であり、いろいろな競技も、すべて日本式である。スイスには日本式の運動会はない。時々、興味を示すスイス人もいた。

帰国してから、こんなことがあった。日本語補習学校の女子生徒の一人が結婚することとなった。小生は来賓の一人として招かれた。その際、祝辞を述べてもらいたい旨の依頼もあった。実は補習学校では、年間1回文集を発行するならわしとなっていた。文集は、自筆であり、イラストもそれなりに豊富に付いたものだった。この文集の作成は、大変力のこもったものであり、各生徒にとっていい記念品だと思う。各巻は150ページもあった。長女の記念品として数巻を所有していたので、その中の女子生徒が書いた一編がとてもいいので、それを読み上げることにした。この祝辞は花嫁にも両親にもサプライズだったようで、喜んでもらった。

数年後、チューリッヒにも全日制的な日本語学校が作られることになり、新校長から帰国していた小生宛、その旨の通知があった。

## デリーの世界遺産

小野 昭生

近年経済界を中心にインドへの関心が年々高まっているようですが、インドの世界遺産といえば、皆様は何を思い浮かべるでしょうか。おそらくタージマハールやアジャンタの石窟などを思い浮かべる方が多いのではないのでしょうか。実はインドの首都デリーには、なんと世界遺産が3つもあり、私はインドへの初訪問の際、幸運にもこれらの世界遺産を一度に見る機会に恵まれました。そこで、その時の思い出について記してみたいと思います。

私は昨年夏まで福岡市に本社を置く西日本鉄道（株）（通称「西鉄」）の監査役を長年しており、その際に経験したことです。西鉄は、鉄道、バスなどの運輸事業のほかにも、不動産事業、流通事業、レジャー観光事業など様々な事業を関連事業として展開しており、その一つに、国際物流事業があります。西鉄では、この事業を戦後早くにスタートさせ、初めは細々と営んでいましたが、日本の製造業の海外進出が盛んになるにつれ、荷主側の要請もあり、世界各国に現地法人を設立するようになりました。そのうちの1つがインド法人で、首都デリーの近くに本社を構えています。設立されて数年たち、2013年12月同法人初めての監査のためインドに出張しました。

実はこのときは、シンガポールの現地法人の監査の後、インドに入りましたが、インドとシンガポールはほとんどすべての面で対照的でした。今や先進国の仲間入りをした都市国家シンガポールは、狭い国土で歴史の浅い国ながらも、緑も物資も豊かで、近代的で、清潔であるのに対し、インドは、大国で長い歴史のある一方、オールドデリーでは、建物も交通機関も古めかしいのが多く、ほこりっぽく感じました。出張中インドの駐在員の話聞いてみると、インドでの生活は、夏の酷暑など自然環境が厳しいことに加え、食事（牛肉はまず手に入らないし、水も安全ではない）、娯楽などにも制約が多く、インドでの生活はやはりたいへんようです。ただし、こうした厳しい環境の反面、他の海外と違って若い人なども業種の枠を超えた交流がさかんのことで、それによりかえって欧米などでは得難い貴重な幅広い人脈ができているとのことでした。

さて、仕事が終わる最終日の飛行機は夜の便なので、現地法人社長にどこか案内してもらうことになり、タージマハールに行けないか聞いたところ、近年交通渋滞が激しく、飛行機の便に間に合わなくなる恐れがあるとの理由で断られました。それを聞いて残念と思ったのですが、その代わりに、デリー市内には世界遺産が3つあり、これらを案内しましょうと言っていただき、

おかげで 大変貴重な経験をすることができました。  
その世界遺産とは、写真にあるように、次の3つです。



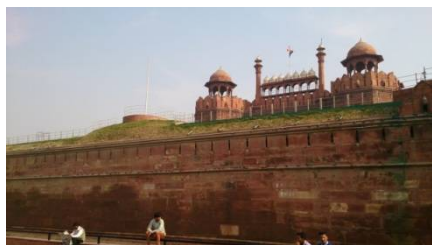
1つめは、クトゥブ・ミナールといい、イスラムの奴隷王朝（デリー・スルタン朝）の建国者がヒンドゥー教徒を破って北インドを征服した際の戦勝記念の石塔（1199年建立）で、高さ72.5メートル、赤砂岩と大理石でできた5層からなり、内部には螺旋階段があります。（写真左が 筆者です）

2つめは、フマユーンといい、ムガル帝国第2代皇帝フマユーンの霊廟（1565年完成）で、正方形の2層建てでどの方向から見ても左右対称であり、インドにおけるイスラム建築の精華とされ、のちにタージマハールを立てる際のモデルとされたとのこと。



なお、これらの世界遺産は、「人類の歴史上重要な時代を例証する建築様式の優れた例として世界遺産に登録された」とされています。

3つめは、レッド・フォート（ヒンディー語では、「ラール・キラー）」といい、ムガル帝国第5代皇帝が1648年に建てた壮大な城塞および宮殿であり、赤い砂岩で作られたことからこの名がついています。広大な敷地の中には写真の建物をはじめ様々な見事な建築物がありますが、この城塞の建築に莫大な金を使ったため国家財政が傾いたといわれているとのことでした。



週末だったせいもあり、いずれの場所も内外の見物客が多く、インド女性の多くは美しいサリーで着飾っていました。物売り以外でも、我々が日本人とわかると親しげに日本語で挨拶してくる人に何度も会い、インドは親日的な人が多いと感じました。

インドはヒन्दウー教の国と思っていたのに、これらはいずれもイスラムの征服王朝時代の建築物であり、意外に感じましたが、インドとくに北部は実は長い間イスラムの支配下にあったことを知るとともに、実感しました。ともあれいずれも見事な建築物であり、皆様もデリーに行く機会があれば、ぜひこれらの世界遺産を見学されることをお勧めします。



## 「冬物語」

### 関 敦

「冬物語」という銘柄のビールをまだ飲んだことがない。数年前から尿酸値が高値安定のせいもあり、ビールだけでなくプリン体リッチのノンアルコールビールも控えている。その代りというわけではないが、シェイクスピアの戯曲「冬物語」を味わっている。「ロミオとジュリエット」、「ハムレット」や「リア王」といった悲劇ではなく、この「冬物語」はロマンチックで楽しい作品。シェイクスピア作品は舞台での上演を主眼に書いた戯曲であり、「散文」と「詩(Sonnet)」で書かれている。その詩は、原文の英語で味わうと素晴らしさが倍増するらしい。小生には、その素晴らしさを感知する能力がないけど、「赤毛のアン」の翻訳者、村岡花子さんはシェイクスピアの愛読者、彼女は原文でその素晴らしさを堪能したはずである。



昨年 9 月、朝ドラ「花子とアン」にシェイクスピア劇が登場した。その場面は次のようだった。『久しぶりにラジオ放送に復帰した花子、放送内容を検閲していた進駐軍の軍人が JOAK 職員から万年筆をとりあげる場面に遭遇。その万年筆は父の形見で大切にしていたものだった。困り果てた職員を見て、花子は軍人に理路整然と英語で抗議。それに対し、軍人は「チビのくせに英語が使えるのか」と高圧的、それを聞いていた軍人の上官が、花子に謝罪するよう命じた。そして、その上官は花子に「あなたはまるでポーシャのようだ」と称賛した』という心温まる場面だった。

この「ポーシャ」はシェイクスピア喜劇「ベニスの商人」に登場する美貌の才女で、法学博士。実在の村岡花子さんも、戦後の混乱期に友人夫妻が GHQ による軍事裁判にかけられた際、法廷で友人に代り英語で弁護し、無罪判決を獲得した。その時の米人裁判長も、花子さんに「あなたはポーシャのようだ」といい、英語に堪能で、誇り高き日本女性を称賛したという。

塩野七生さんが作成した「ルネサンス人」は、アッシジの聖フランチェスカに始まり、最後がシェイクスピア。1564 年に生まれ 1616 年に亡くなったので、昨年が生誕 450 年、来年が没後 400 年。18 世紀以降の欧州でシェイクスピア作品の影響をうけた芸術作品が多い。音楽ではベートーヴェンのピアノソナタ第 17 番「テンペスト」、弟子がこの曲を理解する鍵を教えてほしいとベートーヴェンに尋ねたら、シェイクスピアの「テンペスト」を読めと言ったという伝聞から、命名された。また、誰もが知っている「結婚行進曲」

は「夏の夜の夢」の付随音楽としてメンデルスゾーンが作曲したもの。また、文学ではゲーテの小説「ヴィルヘルム・マイスターの修業時代」の中で、シェイクスピア劇に取り組む姿が描かれている。また、ハムレットの「オフィーリア」を描いたミレイやドラクロアの美しい絵も良く知られている。

日本にシェイクスピア文化を導入したのは坪内逍遙、早稲田大学の構内にある「演劇博物館」は「シェイクスピア全集」全40巻の翻訳が完成し、逍遙が古希を迎えた1928年に建てられた。この建物は逍遙の発案で、シェイクスピアが活躍した16世紀のイギリス、エリザベス1世時代の劇場「フォーチュン」座を模して設計されている。舞台の正面に「Totus Mundus Agit Histronem」と記されており、「全世界は劇場なり」という意味のラテン語。博物館の1階にシェイクスピア、2階に逍遙の記念室がある。逍遙の翻訳をより現代的な文章に改めたのが福田恒存、福田は所属していた「文学座」を離れて「劇団雲」等を立ち上げ、演出家として芥川比呂志や杉村春子とシェイクスピア劇を上演した。



今年の正月早々に信濃町にある文学座アトリエ公演の「リア王」を観た。リア王を演じた江守徹さんが後日、「70才を過ぎないとリア王は演じられない」と言っていた。内容が「相続」や「老人介護」の問題でもあるので、江守さんの後日談に納得できたし、他人事ではなかった。三人の娘役を演じた女優さんの演技が素晴らしかった。シェイクスピアの時代、女性が舞台に立つことは禁じられていたので、女役を変声期前の男優が演じていた。女性が男役を演じる宝塚歌劇ならともかく、男が女役を演じるのは願い下げ。女優が女役を演じてくれるシェイクスピア劇なら、観に行こうという気になる。

DVDを借りアカデミー作品賞映画「恋に落ちたシェイクスピア」を観た。当時を復元した劇場での「ロミオとジュリエット」、舞台を間近で見ると感動する立見席の民衆たち、お忍びで二階観客席にいる芝居好きのエリザベス1世など、なかなか面白かった。そして、男と偽ってジュリエットを演じた主演女優賞のグウィネス・バルトローの美しい「ソネット」に聞き惚れた。

(2015-3-27)

## 銀行家、小野吉一さんの言葉・印象から（メモ）

高松 良晴

平成 27 年（2015 年）3 月 1 日

於：森ノ宮、大阪府立成人病センター

開口一番 断固として述べられたのは、「金融取引の判断の基礎は、恥や外聞にとらわれず、合理的な考えで行うこと」であった。

三和銀行で、預金、融資からはじまり、河原町支店で外為に関してから、その道の専門家となって行かれたようだ。

「銀行の業務は、本来、地味にこつこつと積み上げて行くもの。5,000 万円くらいの取引では、内容もよく分るが、それが 5 億円、50 億円となると、中身がよく分からなくなり、その時の流れ、雰囲気で一気に動いて行ってしまい勝ちである。銀行にとって、貸出が 1 日早くても、利益が大きくなるわけでもない。逆に、1 日遅れて、新しい世界が開けてくる場合もある。慎重に対処することが大事。バブル期には、他行との競争に気を取られ、足元を忘れていた。その時の勢いに流され、十分に中身も確かめずに融資が、不良債権となってしまった。だが、大林組の方は、この土地が、そんな値打ちがあるはずがないじゃないですか、と慎重だった。」

最近「りそな銀行」が国からの借入金返済が可能となったのは、「基本的に債権の規模が小さくなっていたから。国が債務を切り捨てさせ、その後、細谷会長などが、不良債権を受け入れずにすんだ、ことによる。このようなこと、これから、何度もできるものでない。」

「ギリシャ財政は破綻する。破綻すれば、ギリシャ紙幣は紙くずとなる。日本も危ない。健康保険制度の見直し、増税となるかも。これまで、日本の国は、明治維新以来、日露戦争後も、いつも外国からの借金はきちんと返済してきている。それが、日本の通貨への信頼の裏付けとなってきた。」

「ピケティの資産保持からの格差論、最近の著者は 3 流学者。資本に目が行く、とういことは、2 年前から知っていた。だが、格差は必要である。格差があるから、人は上昇しようとする。」

ご自身の判断の勝敗を「五分五分でしたか」とお聞きしたところ、「大半は勝った、と思う」とのことだった。この時、彼の目は輝き、自信に溢れている。

た。判断は、勘です。それは、長年の失敗・成功からの勘でもある。

「自身の資産運用でも、リーマンショックで 2,000~3,000 万円損したが、その後挽回した」とのこと。

「個人所得の税率は 43%であるが、株配当の税率は 20%である。株取引では、配当はリスクへの補填であり、株価は上下しても長い目で見れば一定のところ落ち着くもの、本来、売り買いして一喜一憂すべきものでない。北浜に行くと、貧相な恰好はしているが、株価の上下を眺めるだけで、ゲームを楽しむようにしておられる、本当の「株や」の姿を目にする。

銀行入社以来、毎月、ボーナス期には若干上積して、30 数年間、金を買ってきた。金価格は、増加している。ただ、これらの金融資産を引き続き運用できる人物は、身の回りにはいない。」

スーパー「平和堂」をはじめ、いくつかの会社の再建に、三和銀行の頭取と並ぶ最後の現役専門家として、さらに、三和銀行が合併した後の UFJ 銀行でも社員番号トップの 10001 番として、引き続き何回となく関って来た。それは、相手企業から信頼とご自身の人柄が受け入れられたからとのこと。その信頼を得られたのは、現場のどんな些細な意見や声にも、丁寧にお聞きし、具体的に対応したからだった。渋沢栄一の時代から、「銀行の本来業務は、金融を通して企業を育成支援し、雇用を拡大し、人々の生活を豊かに世の発展に尽くすこと」と言われている。長年、多くの会社の再生を手助けした彼の姿は、銀行家本来の仕事そのものであった。

(筆者の感慨)

彼は、頭がキレ、文献・資料の束も瞬時に理解できた。物事を、冷静に原理原則に踏み込んで考える。よく勉強している。そして、ぶれない判断と行動力がある。なるほど、その結果が、開口一番の発言「恥も外聞もなく判断する」であった。好きで入った銀行、根っからの銀行家だった、と思う。

もう 10 数年前のこととなるが、鉄道会社で、筆者の上司であった、住田正二氏の経営姿勢と重なるものを多く感じた。

帰りの新幹線、車窓から、流れ行く夕靄の景色を追いながら、先ほど、彼が、好きだ、と言っていた、アサヒの缶ビールを口にしていた。

(追記)

彼は言っていたという。

「通夜の宴、家族で、陽気に賑やかに楽しくやってくれよな！

でも、そこに、俺は居ないんだよな…」と。 (以上文責：高松 良晴)

## つくしのぼうや

高橋 育郎

2014年12月2日。麻布十番・国際文化会館にて「KCめぐみ」（神戸女学院同窓生による）のクリスマス・コンサートが開催されました。

ここで奇しくも、誠に光栄なことに、私の作詞「つくしのぼうや」が歌われました。

この歌は、私が所属する日本童謡協会が毎年の秋、恒例として開催している2002年の「童謡祭」でうたわれたものです。

「KCめぐみ」に深い関わりをもつNPO [つくしくらぶ] にお話したところ、では、つくしにあやかって、こんどこの歌を歌いましょうという、うれしいご返事をいただきました。

「つくしのぼうや」を作った経緯ですが、遡ること遙か遠い日の思い出になります。昭和17年。国民学校初等科（小学校）2年生でしたが、担任が動植物好きで、高校でしたら生物担当の先生だったでしょう。

国語（ヨミカタ）の教科書に「ツクシ ダレノコ スギナノコ」という詞がありました。

そこで先生は「こんど荒川の土手へ土筆摘みに行こう」といわれました。

その日は学校から歩いて2、3キロの道のあるいて荒川の土手につきました。川を渡れば埼玉県 of 川口です。こちらは、今の北区赤羽町です。

春のそよ風がほほに心地よく、川上の方に富士山が望めました。だれかが「ああ富士山だ」といって駆けだすと、みんなが後をついて一斉に駆け出し、大笑いになってしまいました。

そうした中での土筆摘みは楽しく賑やかで、10本ほどを摘みとると、用意した紙袋に入れて持ち帰りました。先生が「きょうは土産に持って帰って、おうちの人と食べなさい」といって、「よく茹でて、必ずあく抜きをするのですよ。そしてあく抜きのほかに袴というものを必ずとることですよ。袴をとらずに食べると口に残って食べにくいし、おいしくないですよ」と食べ方を教えてくれました。つくしには、節々に袴と呼ばれる飾りみたいなものが付いています。

夕餉の食卓で食べた土筆はほろ苦さがあって、普段の野菜とちがった野性味があることを子供ながらに知って記憶に残りました。

それ以来、私は土筆が好きになりました。土筆をみるとそばによって、じっと見てしまいます。そして思わず「ぼうや」と呼びかけ、なでてあげたくなります。それにしても、つくしのぼうやの成長は早いですね。あっという間に大きくなってしまいます。

そうした土筆がこの2、30年来まったく姿を見せなくなり、寂しさを感じ

じます。春が来れば土筆が見られる。そんな豊かな自然が戻ってくるといいのになと思わずにいられません。

動植物が好きな先生のおかげで2年生は楽しい思い出がたくさんできました。

糸瓜（へちま）を育てて、蔓から流れ出す液体をビンに流し込み「ヘチマコロン」にして、「お母さんへお土産に持って帰りなさい」といって、化粧品など品薄になった時代に母を喜ばせました。とにかく大東亜戦争勃発の翌年ですから、化粧品は贅沢品とみなされ、節約時代にふさわしくないと店頭から姿を消していたときでした。

母はよろこんで風呂からあがると顔につけていました。

教室の窓の下に小屋を建ててアヒルを3羽ほど飼ったり、そんな経験をさせてくれました。そして遠足と言えば、上野動物園と小石川の植物園でした。

ここで「つくしのぼうや」の歌詞を、ご紹介させていただきます。

つくしのぼうやは かわいいな  
あおいお空を みあげてる  
ぼくはすぎなに なるんだと  
はるにせのびを しているね

つくしのよぶこえ きこえるよ  
いってみたいな 川のどて  
スキップしてるこ てをふれば  
つくしもおかおを ふっている

風はうたうよ たのしいね  
やさしくハミング しているよ  
ぼくらはなかよく うたおうよ  
つくしといっしょに うたおうよ

つくしは土の ふでなんだ  
お空になにを かきたいの  
うれしいことを かきたいな  
いろんなことを かきたいな

先にも書きましたとおり、この歌は2002年の第25回童謡祭でタンポポ児童合唱団によって歌われました。童謡祭は日本童謡協会が主催して、毎年行っています。

作曲は白川雅樹さんで、白川さんは、日本童謡賞も受賞したベテランで童謡の作曲では定評があります。奇しくも前年に「大きな木はいいな」を作曲ください、これが21世紀の愛唱歌に選ばれたことから、カワイの曲集「みんなの童謡200」に載って、NHK・FMで2度ほど放送され、知られるようになり、全国童謡歌唱コンクールの定番のように歌われるようになりました。特に2010年のコンクールでは、予選を通過しての本選に出場し、グランプリ大会において金賞を受賞しました。

白川さんによって私の童謡人生は開幕したといって過言ではありません。そして熱のこもった歌唱によって、みごと金賞を射止めた宮内麻里さんは、ゆるぎない大きな存在になりました。

土筆は尽くすに通じます。尽くすとは人様の幸せのために尽くすという意味になります。

土手や道の傍らの草の中につくしが風にそよいで顔を揺らしていると、思わずかわいいと言ってしまいます。みる人に惜しみなくかわいらしい姿で喜びや幸せを感じさせてくれます。

それから、つくしは土の筆と書きます。青空という広大なページに何を書こうとしているのでしょうか。私は思います。世の中の幸せと限りない希望だと思います。

私の筆は、まだ止まりません。つくしが見上げている青い空は、一端は雲に隠れることがあります、その上には、青い空は広がっているのです。ですから「青い空はいつもある」のです。幸せや希望はいつも燦々と輝いているのです。地上から空を見上げる人の眼には雲に覆われて見えないときもあるでしょうが、その上には、いつも青い空はひろがっているのですね。

(おわり)

## 定年退職

高松 泰代

‘このお味噌汁、お味噌の香りがフレッシュで美味しい’  
‘今日のご飯、なんてふっくらして甘味があるんでしょう、なだまん以上だわ’  
’タラのお煮つけ、絶品。お味がすっきりしているのに深い’

‘国産の魚があったからね’と夫の目はますます細くなっている。

還暦を二年後にひかえたある日、私は自主退職をいたしました。

それまで36年職場で様々な仕事をする機会が与えられました。

秘書 総務 人事 広報 経営企画 市場業務 情報企画 経理 営業経理  
部財務 リスクマネジメント 法務 コンプライアンス 統括 経済研究所

職場条件は：責任は大きく、ノルマ達成はいつも待ったなし、予期せぬ出来事に即対応と厳しいものでしたが、代わりに、自分の想像力を限界まで広げ実行へ移すことができるという醍醐味がいつもありました。

報酬？一時は役員ほどだったかもしれません。

職名？ はい、「主婦」という最高の総合職名でございました。

10数年前のある日、ペット可の古いマンションを麴町の近くにようやく見つけました。26平米の賃貸マンションから犬のチロと一緒に引っ越しは簡単に三日後には住み始めました。そして私は夫に自主退職を伝えました。

‘本日をもって、主婦を退職します。主婦の仕事の華は料理、家計、掃除、洗濯。洗濯はマンションの屋上に洗濯機があり干場があります。掃除は狭い部屋ですから気になったら致しましょう。家計は、残り多くありませんがすべてお渡しいたします。ハイライトの料理は、すでにこの数年でご飯を炊き、お味噌汁がご自分でなされるので、後はおかず買う又少しずつメニューを増やせば。大好きなお買い物も楽しみに。’

夫に料理を一ということはかなり前から真剣に考えてきていました。

定年で家にいるばかりになったら、晩御飯の時間にじっと料理を待っているというのも、想像しただけで気の毒。亡き父が‘わが家系は長生きしない。60歳ぐらいだと思っている’ともうしておりました。料理作ってくれる人のいないのはどんなに寂しいことだろう。もともと美味しいもの、家庭料理が大好きな人だから自分でお料理ができれば。



夫の環境と条件変化への対応は見事に早く、主婦の退職は何一つ障害なく日常生活は進んでまいりました。当初別々のお食事というのも、朝になればフランス映画のよう‘朝食だよ！’パンの breakfast。お夕食は時の流れとともにメニューが増えていきます。

ある日 私から尋ねました。

‘感謝されるのと、感謝するのとどちらが好き？’

‘もちろん、感謝される方。’

‘あら、ちょうど良かった。私は感謝する方が好き。’

料理だけでなく、主婦の仕事を肅々とこなす夫。

私の新しい職名は‘感謝係り’

10歳のときの夢は‘こどもの母親になって、毎日一緒にいろんなことをして遊ぶ’。お見合い結婚し、主人の両親が同居を希望してくれ、お手伝いさんもいてくれて、義父が病に倒れるまで、夢のとおり、生まれた娘の母親としてままごとのような日々でした。主婦の見習い期間だったのだとその後気がつきましたが。

幸せ絶頂の義父を病が襲ったころから、私に本格的に主婦の役職があたえられました。40代後半外部との仕事を始め、会社運営などというまったく未知の世界にいながらも、とまどうこともなく対応している自分が不思議ではありながら、ひとつひとつの仕事は、解決の原点はどれも‘主婦に戻れば見つかる’という確信がありました。

当時導入され始めたコンピューターは、お料理を筆頭とする掃除、洗濯などの家事とまったく同じで、材料を集め、手順を間違えず、手抜きをしなければ必ず出来る。ただ家庭料理と同じに毎日すること、必要な道具材料に投資を惜しまないこと。

対人関係又事務作業は、義両親の頻繁な入院によって、大病院の先生とのご連絡、依頼、折衝という高いハードルも率直と誠意があれば温かい協力を頂ける。病院の看護婦さん、付添いさんとお付き合い。大量の書類作業、常識に基づく金銭感覚の妙などなどは、外資のビジネスマンとやりとりすることになったときに、押す、引くときの判断、気力を楽しめる余裕となりました。複雑なことがらの解決には、それぞれ専門とする人たちの協力の一つの共通目的とすることこそが、成功の鍵であることを実感しました。諸事情で家の売却、購入、家を建てるという事態になったおりも、業者と依頼主の対立ではなく、'共に、目的を心地よく完成成功させましょう'という一体感があれば、トラブルの発生はまず起きないものでした。

よく思うのです、どのような大企業であっても その仕事が求められていることは、「人間が日々生きていくため」。企業、役所などでは、個々の家庭の作業が見えなくなっているかもしれませんが、すべては最終的に人間ひとりひとりと切ってもきれないことをしている一としたら「主婦」という役職は、まさに最も現場にあって、日々刻々変化進化する知識と技術の最先端にいる最高の輝くもの。

「主婦」がもし実態ほど今社会的に評価されにくいとしたら、「素晴らしい、ありがとう」の一言がすぐそばにいる人から笑顔とともに発せられないからかもしれません。

退職後、ときおり趣味で主婦をすることがあります。そしてふと思います。‘私は、こんなにクリエイティブなオリジナリティのある職務を夫にゆずったのだわ。’

時すでに遅く、夫は私よりも遥かに有能な「主婦」になっておりました。



## Children's Books

*(The following is a mail from an American lady who gave some notes on the famous children's books, LITTLE HOUSE. She also introduced a Japanese book or a comic.)*

I am wondering, when you mentioned Little House, did you mean the Virginia Lee Burton book, or did you mean Little House on the Prairie? I love both, in fact. The Virginia Lee Burton has beautiful illustrations and a wonderful build-up of language, it's true. And I think Little House on the Prairie is particularly interesting because each book is written very much as through the eyes of the child of the age she is describing -- that is, the Big Woods book has the concerns and pacing and observations of a 6-year-old, while Silver Lake feels like 13 and Little Town like 15. The way the language of the books grows up with the character herself is remarkable.

My daughter read a Japanese children's book for school that we thought was very interesting. We liked the story line a lot (we couldn't imagine a comparable story in an American kids' novel, actually), but also I thought it was an excellent book for someone studying the language, even though that was not its intent:

クサヨミ (21世紀空想科学小説 3) (日本語) 単行本 by 藤田 雅矢





---

Ref. 1: Introduction at YouTube

<https://www.youtube.com/watch?v=SMWDynFyJHs>

Ref. 2: on the TARAYO tree

***Ilex latifolia* (Tarajo Holly or Tarajo;** Japanese: 多羅葉 (たらよう *tarayō*?), Chinese: 大叶冬青 *dà yè dōngqīng*) is a species of holly, native to southern Japan (Shizuoka Prefecture south to Kyūshū).

It is a small to medium-sized evergreen tree growing to 10–20 m tall with a trunk up to 60 cm diameter. The bark is dark brown, with a rough surface. The leaves are alternate, broad lanceolate to ovate-oblong, 8–24 cm long and 4–8 cm broad (among the largest of any species of holly), glossy dark green above, paler below, with a thick, leathery texture and serrated (but not spiny) margins. The flowers are yellowish-green, with a four-lobed corolla, produced in late spring; it is dioecious, with male and female flowers on separate trees. The fruit is a drupe 7 mm diameter, ripening orange-red to dark red in winter, and containing four seeds; they are often produced in dense clusters on the stems.

It is also called HAGAKI no KI or YUBINKYOKU no KI since the leaves once were used as letter papers.

## TEA TIME

## いよいよ「SIMフリー」元年

2015年はいよいよ日本でも「SIMフリー」が当たり前になる。総務省は、2014年12月22日に「SIMロック解除に関するガイドライン」を改正し、国内の携帯通信会社各社に対し利用者から申し出があれば端末のSIMロックの解除に応じることを義務づけることを決めた。原則として今年5月以降に発売する全機種が対象となる。これまでより自由にスマートフォン(スマホ)が利用できるとして注目を集めている。

### SIMとは？



ケータイ・スマホを買うときは、携帯電話会社と契約をします。契約することで、電話やインターネットができるようになります。

キーワードは「SIMカード」

SIMカードに契約情報を持たせることで、各携帯会社が提供する機能が使えるようになっています。

### つながるのは、SIMカードがあるから。



ケータイは、電源を入れれば当たり前のように、電波をキャッチしてネットにつながりますが、実はケータイにSIMカードが入っているからなのです。

もちろん、みなさんがお持ちのケータイにも入っています。

## SIM カードってこんなもの。



「SIM カード」は、ケータイやタブレットの中に入っている小さなカードのこと。このカードの中に、携帯電話会社との契約情報が書き込まれています。

※SD カードとは、別物です。

## SIM カードを入れ替えるとどうなるの？

「SIM カード」を端末にセットすると、ケータイ・スマホを買い替えなくても、その他の携帯電話会社を使えます。機種変更で使わなくなった古いケータイに SIM カードを入れて復活！なんてことも OK。

「SIM カード」をセットして自分の利用スタイルに合った料金体系を選ぶことで、通信費を賢く節約することができるのです。



## こんなことができます！

スマホやタブレットでのインターネット接続やアプリ、ゲームなど、データ通信を活用して使うことができます。





## 「あなたのお名前」何て言うの

田村 徹

世の中には実に多くの固有名詞が存在しているが、スムーズに日常生活を送るには正確に記憶していることを求められる。

まず、人名である、人生を重ねる程その数は増えていくが、社会の第一線からリタイヤーし緊張感と義務感から解放されるに連れて憶えが悪くなってきました。家庭生活でも会話の途中人名が思い出せずスムーズに会話できないことも多くなって来た気がします。

人名は普通自らが付けるものではなく、両親や先祖によって決められたものです。最近の子供さんにはやたらと字画の多いもの、難字が多いように感じます。こんなことでは各種試験で答案用紙に名前を書くだけで時間が取られてしまうのではと心配になります。

女の子 第1位 メイ(52人)		
漢字名	人数	占率※
芽依	12人	23.08%
愛唯	8人	15.38%
芽生	〃	〃
芽衣	6人	11.54%
萌衣	3人	5.77%
めい	2人	3.85%
芽愛	〃	〃
夢彩	〃	〃
夢唯	〃	〃

某生命保険会社の調査結果（インターネットより引用）

しかし、クレジットカードを使うときサインが難しい字ほど不正請求が減る効用が有るのかもしれませんが。

次に、企業名と商品名について僕の印象を述べてみたいと思います。最近、スポーツ施設、公園に名前を付けるとき、命名権売買という新しいビジネスモデルが有ります。その中には企業名がガラガラしていて、とても親しみを持てないものから成る程と唸らせるものまで様々ですが、経済的には施設オ

一ナの収入になり、命名者も自分の企業名を被せられることもあり両者がウイン、ウインの関係になりますので、今後益々盛んになっていくのかもしれませんが。

大阪のある娯楽施設で「デッセジェニ」というのがあるそうですが、これは「銭でっせ」という浪花子独特の想いと洒落を感じて思わず心が和みます。世界のトヨタの名車「パブリカ」は一般公募で決められた名前ですが、これは大衆を意味する PUBLIC と CAR をつなぎ合わせものですが、大変分り易い命名です。

世界的なバイクメーカ「ホンダ」ですが、創業者本田氏の名前が企業名ですが、東南アジアなどで HONGDA HANDA など紛らわしい名前の企業が現れており、さぞかし天国の本田宗一郎も怒るより苦笑されているかも知れません。

これはあくまでも僕の個人的な感じ方ですが、その昔、宇高連絡船に「紫雲丸」が運行されていましたが、海難事故で多数の犠牲者が出た大事故がありました。

この船名は不吉なことを連想させる「死運丸」に通じるもので、ネーミングの失敗事例ではないかと感じます。

また、空の交通機関である航空機では「木星号」という旅客機が三原山に激突して日本を代表する著名な財界人が多数犠牲になる事故がありました。これも「木星号」というのは、「藻屑号」とも聞こえて、宇宙に消えていく流れ星に聞こえてしまう不吉な胸騒ぎを感じます。

最近、単語が乱れているのか、業界で通ぶろうとしたいのか、ハワイのことをワイハと言ったり、サラダのことをダーサラという人がいますが、いい加減にして欲しいものです。

僕の名前は田村で、田と村の組み合わせですから、多分そのルーツは農民であったと思われます。その昔、土農工商という階級社会で一応ナンバー2になっていますが、こんな事を勝手に考えた士が自分たちの食い扶持を供給してくれる農民を祭挙げたご都合主義の結果であり、現実には農産物を召し上げられる毎日であったに違いありません。改めてご先祖様の苦勞に合掌——但し、明治時代から平民も自由命名権があたえられたので、名前は必ずしも先祖様のルーツを反映したものではなくなったので、この推論は間違っているかも知れません。

今、考えなければならぬのは、戒名ですが、せめてこれくらいは存命中に自分で付けたいと考えています。最近お寺さんも PC の導入が盛んで戒名ソフトもあると聞いています。

今年あたりからそろそろ菩提寺にこの意向を伝えて僕の「改名」いや「戒名」の意向を伝えて行く考えです。



阿武隈川だより

## 時間との勝負

渡辺 成典

4月に入って最初の火曜日。私は国鉄の採用通知を手に、郡山機関区に行った。

「初出勤には背広を着ていかなくちやなんねーべ」と父ちゃんに言われて、うすい百貨店で紺のスーツを買った。百姓の両親はスーツなど着る機会もないし、ネクタイの結び方さえ知らない。母ちゃんは別人を見るように「学生服と違って急に大人になったようだ」と目を細め、腰を屈めて革靴をボロ布で拭いてくれた。鏡をみると、3学期から伸ばして良いとされた髪はまだ短く、私は気恥しさを感じていた。

郡山機関区事務室という表札のあるガラス戸を開けると、区長室に案内された。職場で一番偉い人は、東大出身で本社採用の26歳という若さだった。その脇には若殿を補佐する家老のような人が居て、「首席助役の加川です」と自己紹介された。禿げ上がった頭を隠すように、耳の方から髪をかき上げてポマードで固めていた。壁には567人の職員名木札が並び、横綱（区長）をトップに大関（主席助役）以下、職名や給与順に掛けられており、私の名札は一番下の序の口（整備係）の欄にあった。

郡山機関区は明治31年に「岩越鉄道郡山機関庫」として開設された。その後、磐城まで延伸したので「磐越」という名称になった。

機関区は蒸気機関車の基地だから、数種類の機関車があった。ただ、形式によって線路に掛かる軸重が異なるので、どの線路でも走れる訳ではない。ボクシングの階級と同じ様なもので、ヘビー級は常磐線の特急「はくつる」を引っ張るC62。その次は郡山から会津若松方面へ行くD51。平（いわき）へは、更に軽いD60やD58しかリングに上がれない。また96型は、岩代熱海駅から中山峠の坂道を後ろから押し上げるのが専門で、駅構内で貨車の仕分けをするのは86型だった。それらの他に、磐越西線の急行や客車を牽引するDF50という、電気式ディーゼル機関車が2両ほど配置されていた。

首席助役は「それでは職場を案内しましょう。ナツパ服に着替えなさい。タオルはもってきましたか。黒煙も流れるから」と言いながら外に出た。薔を膨らませた桜が小さな池の水面近くまで垂れ、その一角に緑十字のマークと「安全」という文字が見えた。

「国鉄綱領の一番最初に『安全は輸送業務の最大の使命である』とあります。お客様の生命財産を安全に目的地まで往来する、とても責任の重い職場なのです」と、私から視線をそらさずに言った。そして「ここでは、いろんな人がそれぞれの仕事に携わっている。野球に例えるなら機関士は投手、検査や修繕係りは捕手など、内外野手が心をつにして役目を果たさなければなりません。誰一人手を抜いても事故が起き、安全が守れない。さしずめ区長は監督、助役はコーチかな」と付け加えた。

スレート瓦葺きの木造建物を抜けると、入換え列車が通る線路が南北に一直線に伸びていた。右ヨシ、左ヨシと左右を指で差し、列車が来ないことを確認して広い構内に出た。「来年には東京オリンピックが開かれ、東海道新幹線が走ります。郡山機関区はまだ蒸気機関車が主流だが、そのうち気動車や電車や電気機関車になるでしょう」という言葉は現実となった。

扇状の駐機場には、10両近いSLが止まっていた。その周囲に、傷だらけのヘルメットを被り、油煙で汚れた作業衣を着た人達が、動輪の裏側や下回りを点検する姿が見えた。すり鉢形の転車台で向きを変え、緑の旗に導かれてD51がホームへと向かっている。その横では機関車が石炭や水が補給されており、機関助士が汗まみれで灰を突き落していた。

「どの人もテキパキと動いているでしょう。時間との勝負だからです。人が寝静まっている時間も、列車は血液のように流れているのです。だから時間管理だけは厳しくし、常に余裕を持ち遅れないこと。そして、挨拶も大切です。」

初出勤の時に教えられた「時間」と「挨拶」の心構えは、2本のレールのように鉄道員として基礎となるものであった。



## 桜咲く頃、桜散る頃

藤原 昌子

桜を楽しみに待つようになったのはいつごろからだったろうか。小学生の時にはあまり意識していなかったと思う。校庭には当然桜は植わっていたのだけれど。

当時住んでいた家から駅に向かう道には桜の古木がトンネルのようになっていたところがあって、中学以降毎年花吹雪の中通学したことは心に刻まれている。小学校の頃はむしろこの桜のすぐそばにあったパインレストという建物が印象に残っている。当時進駐軍の女性将校の宿舎になっていたとこのことで道より少し高くなった玄関にはMPがいつもいて、たまに女性将校が颯爽と出入りしているのを見かけたがMPは姿勢をただし敬礼をしていた。夜になると室内に灯りがつきレースや赤やピンクのカーテンが浮き上がり異なる国の異なる文化があることを感じとった。軍服姿の女性将校、敬礼するMPは男性、勤務後個室に入ればそこにはレースに赤、ピンクのカーテンなど好みのインテリア。自由な色彩があった。



ふとあの建物はどういう来歴だったのか興味がわき、チェックしてみたところ、あの辺りを開発したデベロッパーが昭和6年に建てた関西初の本格的ホテルであったことを知った。珍しく滞在型のホテルであったとか。谷崎潤一郎の「細雪」、野坂昭如や小松左京の著書にもでてくる。野坂昭如はここでボーイのアルバイトをしていたそうだ。

戦後進駐軍に接收され、その後は銀行の独身寮として使われた。現在は取り壊され住宅地になっている。数年前その周辺を通ったことがあるが阪神淡路大震災もあったしすっかり様変わりしていた。トンネルのようだった古木の桜も今は思い出の中である。



家の前の殺風景な小さい広場が市から派遣された清掃の人たちの休み場になっていたが少し年月が経つと道路との境に低い木が植えられ更に遊具が設置

され公園になった。しばらくするとあちこちに細い桜が植えられ何年か経つと花が楽しめるようになった。昼間は皆駅にむかって足早に歩き、犬の散歩に来る人はいても夜になると人もいなかったから、家の者は気軽に夜に楽しんだものだ。桜は年ごとに見ごたえがあるものに成長し父は散歩したり体操したりベンチでゆっくり過ごしていた。癌の手術を受けた自分が先に逝くものと思っていたのが思いがけず、母を見送った後も一人で夜桜のもと長い時間を過ごしていた。勿論お酒のお供は欠かさない。酩酊してよく口ずさむのが“この盃を受けてくれ。どうぞなみなみつがせておくれ。花に嵐のたとえもあるぞ。さよならだけが人生だ。”（于武陵「勸酒」、井伏鱒二訳）また、久しぶりに会ったとき「朋有り遠方より来たる 亦、楽しからずや」の心境とつぶやいていた。父が逝った後も公園の桜はますます美しく、だんだん人に知られるようになり場所取りも始まった。“夜も賑やかになってね。”と父の傍にいてくれた妹がそう言っていた。



中学生、高校生の頃は校庭に植えられた桜のもとで過ごすのが大変楽しみで幸せな時間だった。また神戸へ向かう阪急電車の線路両側の桜も忘れがたい。



いつだったか、小さなグループで高遠へ桜を見に行きましょうということになった。出発時間が早かったのだけれど、着いてみて理由が分かった。駐車場に限られていて近いところから埋まっていく。“どうかするとこのあたりになってしまいますからね～。”と随分離れたところにある駐車場の横をバスが通るときガイドさんがホッとしたようにいう。首尾よく便利な所に駐車でき浮き立って城址跡に入っていた。見事なコヒガンザクラの濃いピンク、たくさんの人。お堀の中には花びらがこぼれていた。「あ、花筏・・・」“と俳句をしている一人がいう。皆“花筏”という言葉につられてひとしきりおしゃべりに花が咲く。程なくあまりすわり心地のよくない傾斜に7人分の場所を見つけランチとなった。重いのに赤ワインを持参してくれた人がいたのだが、コルクがなかなか抜けずまたまた賑やかなことであった。

今年も花が開き始めたところ。さてどこの桜に会いに行こうか。お天気も気になるし、心落ち着かぬ日々がしばらく続く。

## サウディアラビア訪問記（6）

藤井 能成

3度目に訪れた時には石油化学系メーカーからバイオテクノロジーの研究者達がKACSTに派遣されて共同研究が開始されることになっていた。彼らは完成したばかりの実験室を見ながら、自然環境も生活環境も全く異なる国での家族を伴った生活にそれなりの期待と心配を語っていた。この時はリヤド訪問だけだったので、帰路に訪問する機会を得たクウェートで見聞したことを述べて見たい。クウェート訪問の目的はクウェート科学研究所（KISR）の逆浸透（RO）法の研究と油田地帯の環境修復のプロジェクトを視察することであった。

クウェートにはリヤドからバーレーン経由で夜到着したのでその日は街の様子を見ることができなかったが、広い道路も街中の建物も明るく照明されていた。第一次湾岸戦争でイラク軍が侵攻・撤退してから6年目のことであった。

翌朝、KISRの瀟洒な建物に到着すると広い会議室に通され、紅茶とクッキーで歓迎された。サウディアラビアとは違い、女性の職員がきれいな模様の小さなガラスのカップに紅茶を注いでくれた。双方からの形通りの挨拶に続いてKISRが進めている研究プロジェクトの説明を受けた後、RO法の実験施設へクウェート湾を右手に望みながら移動した。道路と海岸の間にはフェンスが延々と続いていた（写真①）。



実験棟に着くなり直ぐに実験室に通されたが、室内は殆ど空っぽであった。そして説明に当たった研究者は興奮気味に、実験装置は全てイラク軍に持ち去られてしまったという。確かに壁や床には配線や配管あるいは装置などを固定するアンカーボルトの穴の跡だけが多数残されていた。そして、ようやく手に入れることができたというRO膜モジュール1本だけの装置の高圧ポンプが、窓際で静かに唸っていた。フセイン軍は実験装置だけでなく図書や文献・技術資料なども全て持ち去ったと言う。彼は”Hussein is a thief, only a thief!”と繰り返しながら、“フセイン軍は海岸の小屋に銃を向けて撃っただけで、一般市民を一人も傷つけたり殺害したりしていない、米軍に追われたので時間稼ぎに油田に火を付けて逃げて行った、・・・”と複雑な表情を浮かべながら説明を続けた。（それなのにイラク国民や兵士らは多国籍軍の米国の空爆で多数殺害されたと言いたげに。）アメリカ軍や米国の報道機関から伝えられたようなイラク軍の残虐行為や街中での戦闘などは全くなかったというのである。



RO法による海水淡水化の技術的課題の一つは取水海水の前処理方法であるが、彼らの実験結果では海岸に掘った浅井戸から取水する方法がよいと言う。我々の訪問の2・3年後にRO法による海水淡水化の前処理技術に関する国際学会がKISRで開催されるという知らせを貰った。また彼らは下水及び排水を微生物処理した後、RO法で処理をして再利用する技術の検討も進めていた。この辺りの海水濃度は4%位なので、塩類濃度1%位の下排水からRO膜で処理して再生水を得る方が電気代を節減できるわけである。

実験施設見学後クウェートシティに戻ると、夜のレセプションまでに時間があつたので街に出て見ることにした。ホテルの玄関を出ようとすると入口近くで女性がパン焼きの実演をしていた。大きな中華鍋を裏返しにしたような鉄窯に丸く広げた小麦の生地を丸い布団の様なもので押しつけて焼いていた②。ホテルから横のアーケード街に出て少し行くと、ベッドの枕元に置いてあつたしゃれたチョコレートはどこの国のものかと気になっていたが、直ぐ近くの洋菓子店のチョコレートであることが分かった。2・3人連れの我々が土産用に買うと店番の魅力的な女性が笑顔で包んでくれた③。さらに先の方に行くとデザートやナッツ類などの専門店があつた。女性客が店員達と顔なじみらしく話しながら買い物をしていた。リヤドでもジェッダでも街中で女性の姿を見かけることが全くなかつたので新鮮な感じがした。小さなアーケード街であつたが宝飾品店などもあり、なかなかきれいで高級感のある店が軒を連ねていた④。



写真⑤と⑥はホテルの近くの写真であるが、街並みは整然としていて戦争の痕跡はどこにも見当たらなかつた。

しかしKISRの人の話では、まだ、砂漠や海岸には地雷除去が行われていない所が多いので、標識に従って海岸や砂漠に無暗に踏み込まないように注意された。



翌日は油田地帯の環境修復事業を視察した。第一次湾岸戦争でイラク軍が油田に火を放って逃げた後、アメリカの企業が油田火災の消火に当たった。砂漠に流出した石油が油の池か湖のよう広がった景観を彼らは Oil Lake と呼んでいた。写真⑦は Oil Lake に向かう砂漠の中の道である。時間経過とともに揮発性成分が失われて、我々が訪れた時には非揮発性の石油成分が残ったピッチの沼のような状態であった⑧。



また消火に大量の海水を使用したため付近の砂には高濃度の塩分が含まれていると言う。この状態をもとのような植生の土地に戻すために、濃縮された石油を掻きとり⑨、石油にまみれた砂から石油成分を炭化水素系の溶媒で洗い去り⑩、そのあと界面活性剤を使って真水で洗う。洗浄された砂にはまだ重質油成分と塩分が残っているので、まず微生物処理で油分を分解する。この処理には水と酸素が必要なので砂を畝状にして水分を供給する⑪。ある程度分解が進んだらば耐塩性の植物を植えて⑫、植生を復活させるというプロジェクトである。



夏には 50℃にも達すると言う過酷な環境で実験作業を進めていたのは、日本のゼネコン各社から派遣された技術者達であった。原油成分を分解する微生物の探索や耐塩性植物のスクリーニングなどの研究に関しても、我が国との共同研究が行われていたようである。

油田地帯には何時でも採掘できるような状態の写真⑬のように整備された油井が無数見られた。現在の生産量であればクウェートにはあと 100 年分の埋蔵量があるという。



油田地帯を往復した際、車の窓から幾組かのテントが砂漠のかなたに見えた。砂漠にテントを張って時を過すことはクウェートの人達にとって最も好まれるリクリエーションであり、結婚式なども砂漠のテントで行われると言う。石油で汚染された砂漠の環境修復に力を入れるのはそのような背景があるためかも知れない。

他方我が国の原油輸入量の割合ではクウェートは 4 番目の重要な輸入元である。このため過酷な環境での難しいプロジェクトにも技術的ポテンシャルがある以上協力をしなければならないのであろう。写真⑨の左手の無窓のプレハブが休憩所である。部屋には塩味のスナックとコーラ類やペットボトル入りの水が多数置いてあった。強い日差しの下で 1 日仕事をした後には冷たいビールが目浮かぶだろうが、クウェートも禁酒の国である。見渡す限り Oil Lake が広がるこの地で働くゼネコンの技術者達に頭の下がる思いであった。

クウェートからの帰路は、クウェート空港を夕方発ってドバイ空港に夜到着した。トランジットでドバイの隣国のシャルジャのホテルに泊まることになっていた。旅行案内書によるとシャルジャのホテルではビールが飲めると書いてあったので同行者達とビールで乾杯とゆきたかったが、我々の泊ったホテルにはあいにくアルコール類が置かれていなかった。砂漠で働く技術者達を思い我慢することにした。

一人で一泊だけなのに、部屋は十畳かそれ以上の広さの部屋が二つ、ベッドルームが二つ、それにバスルームのほかにキッチンもついているような部屋であった。ベッドルームから入口までテーブルも椅子も見当たらない大部屋二つを通らなければドアに近づけない。絨毯の汚れ方から想像するところ、中近東の国々の家族づれが利用する部屋のように、買物や観光に訪れた大家族が部屋の中央に車座になって飲食をし、旅行を楽しむ光景が目についた。往路のトランジットで泊ったシェラトンホテルとは大違いで、このホテルがビールなどを置かない理由が分かったような気がした。(終り)



## ぼくのじいさん

湯沢 雍彦

誰にでもあてはまる話だが、私のじいさんは二人いる。〈父の父〉と〈母の父〉である。しかし、父方の父は遠く山梨県にいたので会ったことがなく、写真でしか知らない。母方の父は、私が6歳になるまでは隣り合わせに住んでいたし、戦災を受けた昭和20年5月からは、焼けなかった我が家に数年間同居していたから、なじみは深い。

以下に、湯沢艶四郎という名のこの母方のじいさんのことを綴ってみよう。

文久3(1863)年に下野(しもつけ)の国(今の栃木県北部)鹿沼の近くで生まれた。明治元年の5年前で、薩英戦争や天誅組の変など維新初期の騒然たる時代だったが、下野のいなかには関係なかった。成人まで家業の神職や農業を手伝い、明治23年頃見合いで妻になるミセと結婚する。同時に、妻の親戚にあたる黒磯(東北本線の駅がある)の家に夫婦養子として入った。中島姓から湯沢姓に替わり、薪炭商の見習いをしていたようだ。

数年修行を積んだところで、上京を決意する。明治18年に開設されて間もない甲武鉄道(現在の中央線)新宿駅東口からすぐの所に、土地を入手した。妻の実家が裕福で資金を出してくれたらしい。土地の周囲にはまだ荒地が多かったが、青梅街道から一本南側で甲州街道にも近かった。土地売買の単位面積は農村と同じで、1反歩(300坪)だったようだ。これが明治30年代のことである。発展性の高い土地(角筈1丁目1番地)をよくぞ入手できたものかと思えるが、街道に直面していなかったことが惜しまれる。明治42年には背中合わせの土地に、パンの「中村屋」(当時は支店、のち本店となる)が300坪の土地を買って進出し、のちに大きく発展した。中村屋は、青梅街道に直面しているのである。もっともこれは、店主の商才と資金力それにチャンスによるものであろう。

とにかく、新宿駅は乗客駅であるとともに市内有数の貨物駅であったので、運送屋、石屋、材木屋などが進出した。最も多かったのが薪炭問屋で10軒以上もあり、のちに本屋に代わった紀伊國屋などもその一つだった。〈新宿は炭問屋の町だ〉と言われたこともあったという。東京の市街地が、西へ西へと発展していったことにつながる。まだ都市ガスがない時代で、薪炭が最大の家庭熱エネルギーだったのである。

屋号を〈角中〉といていた湯沢の店は、薪炭の大部分を郷里の栃木県から、不足分は三多摩地方から新宿貨物駅まで送らせ、そこから約300メートルの距離を馬車で運んで6棟の倉庫に入れ、周辺の小売業者に卸す卸売業を営んで成功した。駅から店までの距離は短いものの道路は舗装などないので、

雨の日など馬車の車輪が道にめりこむので運ぶのが大変だったと、じいさんはよくこぼしていた。

一方、紀伊國屋の方は、大正末期に跡取りになった田辺茂一（母はよくシゲちゃんと呼んでいた）が慶應義塾大学文科に進学したために炭屋を嫌い、昭和2年に本屋に転業してしまった。親類縁者は、我が家も含めてこぞって反対したそうだが、茂一氏は「炭も本も元はパルプで木材だ。同業を発展させたまでよ」とうそぶいていたという。実は新宿大通の向かい側には〈池田屋〉という中規模の老舗書店があり、本屋仲間のルールでは「300メートル以内の新設書店は雑誌・絵本を置いてはならない」との規約があったそうである。たしかにその規約は守られていた。私も小学生の頃何度か戦前の紀伊國屋を覗いてみたが、雑誌や絵本はなくて、子どもにはとてもつまらない本屋だった。そのため紀伊國屋は始めから大学生以上の大人を相手としていたが、戦後には学制改革による大学拡張期が始まって非常に発展することにつながった。

さて、じいさんの話に戻りたい。うちのアルバムには、じいさんが大正末期か昭和初年に淀橋町の町会議員をしていた写真が貼ってある。今で言えば、新宿区議会議員である。私には、これが不思議だった。じいさんは全くの無学文盲で、字の読み書きができないのである。もっともこれは、じいさんの罪ではない。学制（近代学校制度）は明治5（1872）年に公布されたもので、じいさんはそのときすでに10歳になっていたから、学校には背を向けて仕事をする世代だった。

幸いにも、結婚相手となった3歳年下の妻（ミセ）が、生家宅地の一部が学校用地に取られた縁で、年遅れながらも小学校へ進学し、一通りの読み書き算盤を習って4年を卒業していた。明治初年の小学校入学率・卒業率は、とくに地方女性において非常に低かったから（1割くらいか）珍しい例であり、この結婚はじいさんに幸いした。夫は客と荷物を引き受け、帳簿付けと計算は妻任せ、二人三脚の商売が上手に成り立った。

「選挙のときは、自分で字を書かなくてはならないので困ったのじゃない」と私がきいたところ、「いいや困らない。出る前に家の者に、用紙の大きさに選びたい人の名前を、墨で太く書いてもらう。投票所で、その紙を投票用紙の下に置いて写せばいいんだから」と答えられた。「ふーん」と感心するほかはなかった。

しかし、何といても店の立地が良かった。「新宿という所は、何を売ってもよく売れる所なんだよ。すぐ裏に出来た〈高野〉なんかも、始めは戸板一枚に品を乗せただけの八百屋だったのに、果物だけの〈フルーツ〉にしたら大きくなった。人がたくさん通るといことが、一番大事なんだよ」と語ってくれたことがある。

このじいさんはいつも冷静で、怒ったり怒鳴ったりすることは全くなかった。戦災で家が焼かれ、戦中・戦後しばらくの間我が家に同居していた。私が連れて風呂屋に行ったとき、足を滑らせて仰向けに転んでしまったことがある。普通なら「痛い」とか「設備が悪い」とか大声を出すところだが、一言も発せず、静かに立ち上がったことも忘れられない。

妻ミセが 52 歳のとき脳溢血で倒れ、片手片足が利かなくなり、のちには胃癌にもなったのは不幸なことだったが、そこで初めて女中を入れ、当人を癌研究所にもかからせ、娘（私の母）には入婿をとって隣家に住まわせて手伝えせるなど、手を尽くして切り抜けた。ある使用人の話では、離れたところに女がいるらしいとのことだったが、妻の治療や暮らしの手当も十分にしていたので、非難する者は誰もいなかった。

昭和 15 年頃だと思うが、本家・分家の嫁・娘・孫を 8 人近くも連れて、熱海温泉と函南温泉に 8 日ほど連泊したことがある。熱海は磯辺館という大型旅館だった。温泉がプールのように大きいので、ほかのお客が少ないと、じいさんはたちまち泳ぎ出してしまうのである。見事なクロールだったが、我々は呆然と見ているほかなかった。また唯一の趣味は義太夫で、近所の商店主仲間 4～5 人を誘っては先生を家に呼び、時に孫までも前に座らせて臨時の舞台の上で大声を張り上げた。ずっと居るとお小遣いがもらえたが、30 分でも辛い思いをした。

じいさんはほとんど病気をせず、88 歳の長寿をまっとうして老衰で亡くなった。

戦後、孫やひ孫の数は増えていったが、誰に対しても文句一つ言わず、家族・親族に対してこれだけ豪勢な遊びをおごれる人は、誰も出ていない。結局湯沢一家にとっては、のちに大学出は何人も出たが、この無学文盲のじいさんほど成功して金持ちになった人間は、他にいなかったのである。

ついでに、その妻湯沢ミセのことについても一言しておきたい。晩年の 10 年間ほどは、夫や長男家族の元を離れて、代々木にあった我が家（母が二女だった）に同居していた（この家もじいさんが建ててくれた家だった）。ミセは中気病みで一人では動けず、天気の良い日は廊下で日光を浴び、トイレに行くときには誰かが肩を貸さねばならなかった。しかし、人柄は温厚で、頭は確かだった。ラジオもよく聞いていたが、私が小学校の 4 年か 5 年の頃、時間がある夕方は、吉川英治の『宮本武蔵』を読んでくれとよくせがまれた。少しのお小遣いももらえたので、私も得意になって、おツウと武蔵の切ないロマンスを何冊も読んだ。ラジオから聞こえる徳川夢声の朗読の声をモデルとしてだった。

（2015 年 1 月記）

## つくしくらぶ ―活動の経緯と理念―

我が国は、自国語の日本語によってほぼ全ての日常生活が完結され得る国です。それだけに来日した欧米ビジネスマンの多くにとって、国際都市東京に於いて英語がほとんど役に立たないことは大きな驚きであり、また自らは、“読めない、聞けない、書けない、話せない”の四重苦に陥る現実に愕然とします。日常生活やビジネスのやりとりの中で非常に異なった価値観、いわゆる 異文化の世界の中で途方にくれ、不本意な思いで帰国する事例が多くみられます。その背景には、歴史伝統からの文化慣習の差による 異文化の壁があります。

平成 11 年来、英語でコミュニケーションのできる家庭婦人達が集まり、業務で来日生活する外国人及び家族が遭遇する文化慣習の違いから生ずる諸問題の解決を目的として、「つくしくらぶ」の名で支援活動を行ってきました。

“つくしくらぶ”の名は、“(人に)尽くす”との意味を込め、同時に、雪解けの春の野に顔を出し“自ら伸びやかに育つ”土筆の姿を思い描いています。

異文化は、なにも国と国との間にだけあるものではありません。同じ国の中にも、個人どうしの中にもあります。文化はどちらが正しく、どちらが悪いというものではありません。それぞれの正しさを主張しあうところに紛争や憎しみが生じがちです。それゆえ、私どもは、お互いが相手との違いを理解し、その違いを尊重し合うことこそが、相互理解を可能にするとの考えで、これまで活動し、これからも活動してまいります。

これらの活動を明確に位置づけるため、内閣府に特定非営利活動法人としての設立申請を行い、平成 18 年 9 月 5 日、その認証(府国生第 859 号)を取得しました。

また、これを機会に、国内外のビジネスや技術開発など、長年業務に携わった経験豊富な方々の知恵や工夫をも活動に生かして行くこととしています。



平成 27 年 4 月 (第 9 卷 2 号) 貝坂倶楽部

発行所 NPO つくしくらぶ出版

102-0093 東京都千代田区隼町

2-12 藤和半蔵門コープ 801

email [tpine304@nifty.com](mailto:tpine304@nifty.com)

平成 27 年 4 月

陽春の候となりました。いかがお過ごしでいらっしゃいますか？

季刊誌貝坂倶楽部は 多くの方々のご協力のおかげで初版 2007 年春号より発行を重ねてまいりました。小冊子ではありますが 配布申し上げた皆様からご好評をいただいております。

**このたび 2015 年春号を発行いたしました。 お読みいただければ幸いです。**

貝坂倶楽部冊子印刷版は会員、サポート会員、より良い活動のためご尽力をいただいている方々、また広報の一環として関係各位にお送りさせていただくことにしております。

(会員外でメールアドレスをいただいている方々に電子書籍ご希望の方々どうぞご連絡くださいませ。 [tpine304@nifty.com](mailto:tpine304@nifty.com) 高松)

ご感想、ご意見など頂けましたら幸いです。 また今後も沢山の方からのご寄稿をお待ちしております。

### 季刊誌ご投稿お願い

季刊誌を会員の皆様の発信冊子として 育てていきたいと願っています。日頃の思い、いろいろなご経験からのお考えなど是非お寄せ下さい。

2015 年季刊誌の発行とご投稿時期の予定

秋号 発行 10 月 / 原稿〆切 8 月 15 日

原稿をメールの添付でお送りくださいませ。B5 サイズ 2 頁を目安にいただだけましたら幸いです。(フォントはHGS ゴシックM の 11 サイズ) お送りいただいた原稿は当方での校正編集などはなく、そのまま掲載させていただきます。

## つくしくらぶニュースレター

会員、サポート会員の交流情報交換の場として冊子発行とともにお送りさせていただいております。皆様からのお便り、ご近況などお待ちしております。

(活動ついてご連絡お問い合わせ：[tpine304@nifty.com](mailto:tpine304@nifty.com) つくしくらぶ事務局)

### 活動、イベントなどのお知らせ とご報告

#### お知らせ

##### 1. Circle WA



‘とにかく英語で話す機会があれば’ということからスタートしました。

水泳、自転車と同じように身体で慣れ‘ること。

又、つくしくらぶ文化プログラムの外国人メンバーの方々と異文化交流の会でもあります。月一回ですが、定期的に英語だけの二時間が短期間に英語による会話が上達していると参加者一同実感

しています。Circle WA 方式の広がりを目指します。新しくお仲間ですスタートしてみたいと思われる方はどうぞ、一度ご参加なさるか、ご相談ください。

毎月一回月曜日 10時から 12時まで

国際文化会館 402号室 参加費 1500円 (会場費)

日程：2015年 **5月18日**、**6月15日**、

##### 1. Circle Aunty 発足

約 30 名のメンバーにご参加のご案内とファイルをおおくりしました。

一昔前極く当たり前だったお仲人さんたち。

今でいうボランティア精神一杯の、‘おせっかい’ ‘おばさんは、子供を育て上げた後、いきいきとせつせと縁結びに精をだしたものです、見銭も切って。

この度チャーミングなおばさんの会 *Circle Aunty* がスタートすることになりました。

ご案内書類をご希望の方は事務局まで。

1. **Circle Himmeli** フィンランドの民族手工芸ヒンメリを作り、東松島子ども会でのクリスマスの飾りにお送りしました。ストロー、ガラス、竹ビーズなどの材料で作品作りの可能性を楽しむ会です。



**報告：**

**1. セミナー：『最近の25年間で日本の家族はどう変わったか？』**

**講師：湯沢雍彦様(お茶の水女子大学名誉教授)**

**2015年3月16日(月曜日)1時半～3時**

**国際文化会館セミナー室(404号)**

同封の写真レポートをご覧ください。当日ご用意くださいました最新データファイルとともに深く詳細に平成の家族の環境の変化、実態を湯沢先生はお話くださいました。一般に報道され、言われているよりは明るいデータ結果であり、先生は‘全体として家庭事情は向上していると言えます’ときっぱりおっしゃいました。

少子化高齢化社会への不安が現在の否定的な報道の要因となっているのでしょうか。先生ご自身が‘夢と思われることを実現してこられている’のは参加者に大きな希望を与えてくださり、今回のセミナーの最大の贈り物です。三階建てのコンクリート住宅。三世帯同居（一階親世帯、三階子世帯、二階共有キッチンダイニング） 日曜日は全員がともに夕食。先生に‘年を取り健康などの万ーのご心配は?’との質問には ‘全くありません。’ ‘同居の秘訣は?’ ‘適当にズボラで欲張らないことでしょうか’ とふっくらと笑顔。

**1.GPの宝箱：**

**2015年5月東松島子ども会に、30万円ご寄附させていただきます。**

**皆様の温かいご協力に心より感謝いたします。**

**GP の宝箱—東松島のこどもたちを見守るちいさな募金**

**活動：** 遠くからみえていますよ、思っています！という思いを、折節にお届けしていきたいと GP (Grand Parents) の宝箱 がスタートしました。わずかであっても、心を籠めて長く続けていきたいと思えます。

- \* 募金の領収書をお送りいたします。
- \* 募金状況、活動報告を定期的に致します。

募金お振込み：00190-1-359683 特定非営利活動法人つくしくらぶ  
発起人一同：NPO つくしくらぶ会員（廣田紀子、岩下周子、西山裕子、萩野洋子）



## 会員活動：クリニック

### マキ 心療教育相談室

代表 藤光純一郎



東京砂漠の心のオアシスの一つとなれば一との願いから開設した、民間の「こころの相談室」です。 当相談室は心理カウンセラーのあつまりです。必要であれば、適切な医療機関にご紹介します。 予約制、お電話でご予約ください。

TEL : 03-3223-5044

月曜日から土曜日まで。

相談料：3000円から6000円/ 50分

### 歯科医院 ナルミデンタルクリニック

<http://narumi.main.jp/index.html>



院長：足立ナルミ

当院では、咀嚼機能だけでなく審美的な面ともども合わせた回復を目指し患者さんとコミュニケーションをとりながら治療を進めています。

歯科治療は細かい作業ではありますが、ミクロとマクロの両方の視点を持って、症状に向き合うことが歯科医には必要だと思っております。歯槽膿漏の原因の多くは噛み合せにあるという視点から治療のアプローチをすることで多くの患者さんは歯の寿命を延ばすことができています。また乾癬や掌蹠膿疱症の患者さんが金属アレルギーの治療で良くなったケースなどもあり

ますので、お悩みの方は一度ご相談ください。

〒102-094 千代田区紀尾井町3-32 紀尾井ビル1階 [TEL:03-3265-0995](tel:03-3265-0995)

最寄駅、永田町駅、麴町駅ともに徒歩3分、日本都市センター前

### 薬師堂クリニック

<http://yakushido-clinic.jp/>



院長：石堂達也

薬師堂クリニックは消化器内科を中心とする内視鏡や超音波による検査と、東洋医学を取り入れた内科クリニックです。

現代社会に生きる我々は、未曾有のストレスに身を曝されています。このような状況下で健康を維持し、より充実した生活を送るためには、疾病の早期発見・早期治療はもちろん、『こころ』と『からだ』のひずみを正し、バランスのとれた状態を維持することが必要です。当クリニックでは、皆様一人ひとりとのコミュニケーションを重視し、一人ひとりのニーズに合った医療を提

供して参ります。当クリニックを皆様の『健康のコンサルタント』として、また『癒しの場』としてご活用頂ければ。

TEL:03-3500-5090 / FAX:03-3500-5367

〒100-0014 東京都千代田区永田町2-14-2 山王グランドビル2F

東京メトロ（銀座線・丸の内線）赤坂見附駅（ペルビー赤坂出口）より徒歩3分

## 文化プログラム

1. 生け花、ヒカリスクール: 講師は滝井ひかるさん
2. 墨絵: 講師は平本理子さん



平成 27 年度 (平成 27 年 6 月 1 日 ~ 平成 28 年 5 月 31 日)

サポート会員のご案内

年会費 : 2000 円

お振込み先 : 三菱東京UFJ 銀行

麴町中央支店 (普通) 1496570

特定非営利活動法人つくしくらぶ

NPO つくしくらぶ 事務局 (Email: [tpine304@nifty.com](mailto:tpine304@nifty.com))

URL: <http://www.npotsukushiclub.com>

「最近の25年で日本家族はどう変わったか？」

講師 湯沢雅彦氏

2015年3月16日(月) 国際文化会館404号室

NPOつくしくらぶ セミナー 写真レポート



最新ご著書:「テーターで読む平成期の  
家族問題」(朝日新書 1512円)

